

## 議会いきいきトーク記録

### 【第 1 班】

開催日時	平成 31 年 1 月 28 日 ( 月 ) 19 時 00 分 ~ 21 時 00 分
開催場所	長島まちづくり拠点施設 1 階 会議室
参加人数	15 人
参加者からの 意見・要望等	<p>1、 会長挨拶 青少年育成市民会議として、議員や行政に要望を伝えるのにどのようにすれば我々の意思が伝わるかということで、いきいきトークをお願いした。どこまでうまく説明できるかわからないが、少しでも今回の話がよい方向にもっていかれたらと思っている。</p> <p>2、 班長挨拶 桑名市議会には 3 つの常任委員会があり、ほかのひとつに広報広聴委員会がある。市民に対しての伝達方法としてホームページや議会だよりを作成している。年 2 回議会報告会を開催しているが、参加数が増えないので我々から出向いていくいきいきトークを昨年からはじめた。今回で 2 回目。今日は議会報告会 1 班が担当させていただく。</p> <p>3、 自己紹介 (参加議員 6 名)</p> <p>4、 会長や役員から今回の説明 会長) 桑名青少年育成会議の今までのいきさつを説明。昭和 50 年国民会議、県民会議と変わり、行政とボランティアの両輪で青少年育成に努力してきた。発足から 40 年強。現状は桑名地域会議と多度地域会議、長島地域会議の 3 つが集まって桑名市青少年育成市民会議となっている。昨年の市民センター化に伴い、事務局も行政の職員でなく、会計も自分たちの中から出してほしいと言われた。各地域会議については、職員からのフォローはしてもらえないというので、今までやってきたことができなくなった。このままいくと、今までしてきたことができなくなるので何とかできないか。1 年から 2 年くらい前から行政とは協議してきたが平行線状態。行政は、まちづくり協議会に青少年育成会議を移行してはどうかというが地域性の差が出てくる。私たちは、3 つをいったん崩して市の青少年担当からより良い形に再構築をお願いしたが、いい返事がもらえなかった。この会がなくなっても子供たちの健全な環境づくり支援をお願いしたい。</p>

多度では月1回夜間パトロールを行政の回転灯がついた車で職員が運転していたが、市民センター化によりできなくなり、現在は桑名安全協会に青パト、多度の駐在さんに月1回パトカーでまわってもらっているが、ずっと継続できるのか疑問。補導員にしてもそれぞれの地域で活動が異なる。最終的にこの青少年育成市民会議が無くなったら、県下には組織があるが桑名市だけ無くなってしまう。周辺自治体は行政の支援があるのに、桑名市は青少年育成にはサポートするが各地域会議にはサポートしないという。もともとは行政とボランティアの両輪だったが、それは発足当時のことだといわれた。市長あてに質問書を出し答弁をもらったが、青少年に関することの善処をしてほしいとお願いしている。

副会長) 活動の重さに温度差がある。先ほどの会長が言った防犯でも地域によって差がある。自前の組織で青パトを立ち上げ、補助なしで回っているところもある。その他、見直しが必要なところもある。

子どもたちのために、登下校の安全見守り等を多度長島にも支援いただきたい。桑名は事務局がよくやってくれているが、多度長島はすべて会の負担になっている。見直しをお願いしているが返答なし。我々は子どもたち地域の青少年のためという気持ちで安心安全を見守りたいのが一番。青少年育成市民会議はなくしたくない。一本化してその下でやっていきたい。

参加者からの  
意見・要望等

5、 意見交換 (◎議員、○参加者、各個人の意見を要約)

○ 議員が自分の地元についてどう思っているか。密着した意見を聞きたいからこのトークがあると感じるがそれについてはどうか。

◎ ある程度把握はしている。

○ 今回は、私たちからこういう問題点があるからお聴きくださいという形でよろしいか。

◎ はい。

○ 議員が青少年育成市民会議の存在をどの程度までご存じだったか、必要性の考え、事業内容をご存じなのか、今後どのような形がベストなのか、期待しているのかお聞きしたい。行政は今後、まちづくり協議会にゆだねるというが、どのように思っているか。

◎ 地区では青少年の顧問をしている。今のところ不都合はない。まちづくり協議会に関しては、青少年育成とは別と考

えている。

- ◎ 長島は各自治会から会費徴収しており、青少年育成のために使っている。事業は子どもたちの補習や相談、発表など。これからについては、今までのやり方で。事務局を一元化するなら問題点をお聞きしたい。地域の思いを地域の方でというのが市の姿勢。思いをもって厳粛に活動していただきたい。
- ◎ 大山田南地区会議のメンバー。通学路での挨拶運動、青パト活動等を行っている。青少年育成会議という形は残した方がいいと思う。PTAも合併した後、事務局も手伝わず自分たちでやる事となり、話し合っべてすべての事業を一本化した経緯がある。事務局を一本化できないのかという疑問を伺いたい。
- ◎ PTAをやってきたので、認識はしている。青少年育成会議に参加したことはないの具体的に地域で何をされているか。パトロール見守りしかわからない。私自身、助成金もなく出前授業のボランティアを立ち上げて続けているので皆さんのご苦労や努力はわかる。一本化して構わない、続けたいならば3つがひとつにならないのか。一旦つぶして一本にするのと今の3つを重ねることとの相違が疑問。
- ◎ PTA会長時代に防犯パトロール等を手伝っていた。青少年育成会議の目指しているところは同じでも、桑名と長島多度では収入源や動きが違うことを初めて知った。まちづくり協議会と合併するのか明確な答えは出ない。勉強中です。
- ◎ 自分の地域では、防災防犯が市でも抜きんでていると思う。小学校、地域住民が一体となり事業行事ができています。今日は皆さんの意見をお聞きし、子どもの幸せのために何が一番いいのか話し合っていきたい。
- 議員の話を聞いて、私たちは見えない事業をしていたのかと思うほどショック。皆さんに聞いたかったのは、まちづくり協議会をどのように思っているか、どこまで説明を受けているか。多度長島桑名、同じ事業を立ち上げようにも地域の大きさに相違がある。必要なものも違う。青少年育成会議がそのまま、まちづくり協議会に移行できるのか。議員はまちづくり協議会でどのようなものを目指している等、市から説明はうけているのか。
- ◎ 青少年とは別組織。
- 我々が行政から受けた説明は、青少年育成会議が異なる3つの地域性で無理やり合わせているので本来満足いく形でないから発展的解散をしましょうと。そのあとの枠組みを作っしてほしいとお願いしたら、まちづくり協議会で機能を満たすから必要ないと。平成16年12月に合併して青少年育成会議も合併協議会を行った。多度と長島は中学校区、

桑名は小学校区の考え方。形だけでも一つにということで桑名は挨拶運動、多度は中学生主張大会、長島は教育講演会を全体事業として3本柱でやることになり続けている。それぞれ地域で開催している行事も並行して行われている。それを一緒になればよいが水と油のように風土が違うから一緒にはなれない。一回なくしてもう一度立ち上げた方がスムーズに行くのではないか。まとまって見せているが、実際はまとまっていない。

- ◎ では、別々でよいのではないか。
- 別々は、だめだと行政に言われた。今までの事業を継続ならある程度の補助金も保障すると言われたが、市民センター化して今まで見えなかった部分を補填してほしい、それならば事務局を雇うなどの選択肢もありえるなど上乗せを希望したが、答えてくれなかった。この会議は両輪でなければならないのに、いつのまにか片輪が知らん顔、片輪だけで努力して頑張れという体制に憤りを感じている。市民はこの内容を知らないから、あの会は何をしているのかと思われている。
- ◎ そんなことはない。具体的に何に対していくらと要求しているのか。
- 合併前のデータがあるはずだから、それをベースに上乗せをお願いした経緯はあるが、そのような補填はないと言われた。本部はあるが地域会議の基本的な所在地もない、何か集めても市民センターにお願いして扱ってもらっている。我々のやり方が悪いなら行政がオール桑名でもう一回組織を作り直してほしいとお願いしたが、まちづくり協議会でやるからいいのだという返事。
- ◎ 水と油でバラバラ、それを一回解散してもう一回あわせても結局くっつかないのではないか。
- オール桑名に適したイベントを立ち上げてそこから広げるしかない。新しい人が入れば意見も出る。だから一回ご破算にしたほうがいいのではと言っている。
- ◎ ご破算という話は行政からは聞いていない。
- まだそこまで話はいっていない。青少年が関わっていることなので母体が無くなっても引き継ぎの橋渡しができたら問題ないのではないかという考えがある。その足掛かりを議員で作ってもらいたい。大切なこと。一石を投じてほしい。

- 青少年健全育成都市宣言を出している桑名市が青少年育成市民会議を重要視していれば、毎年のように担当部署は変わらないはず。基本方針、具体的な施策は挨拶運動、スマホおやすみ、中学生主張大会の3つという。もっとある。市からの回答書に青少年推進指導員連絡協議会を有効活用し協調せよというが、何回会議を開いているか。顔合わせで終わり。  
もっと市としてビジョン、方針、施策、熱い思いを持ってくれたら結集できるのではないかと。行政側にもう一度考えていただきたい。そこを理解してほしい。もっと言えば青少年のサポートをする部署をなくしたこと。我々はやめたのではない。もっと方針を出してもらい協力したいと思っている。市のいう挨拶、スマホ、主張大会で本当に桑名市の青少年健全育成になるのか。
- ◎ 市民会議でそれを作っていくのはむずかしいのか。
- ある程度は行政で企画立案するのではないかと。我々も並行して協議していくことはできる。オール桑名で行くのならひとつのビジョンを挙げて3年間はこれでみんな一つにまとめましょうというような旗振りの時期だと思う。また、サポートセンターからの不審者情報。年間平均75件。75人が嫌な思いをしている。地域皆の目で見えていくということ、多度は減少してきている。活動の成果。嫌な思いをさせない環境浄化などの方針動きも必要。
- ◎ 多度長島は中学校区、桑名は小学校区の青パトで犯罪も減少している。やっていることは同じでは。PTAと民生、民児協が地域もばらばらでやっていたが一本化した。
- 一本青少年に関するものを掲げてほしい。生涯学習に青少年を追加してほしい。それを動いていく組織にしたい。
- ◎ 0歳から18歳、今、国は33歳まで見ていくということでその所管がない。それは議員も当局に対して突っ込んでいる最中。窓口を一本化するように。そこは共通の方向性に持っていけるのではないかと。
- 地域安全は地域と行政が助け合って頑張るものと思うが、行政は我々が好きでやっていると言われた。ボランティアで好きでやっている。カチンときた。最初は助けてくださいとお願いしてきたのに、自立したら好きでやっていると言われた。どう思うか。合併後、多度長島は行政と両輪でやってきた。組織が一緒にならないで、見えないところを外されていき、これから誰がするのか。事業が始まっても人がいない。これが正しい形か考えてほしい。
- ◎ 皆さんは行政に頼まれたからという気持ちでやっているのか。青少年育成の思いがあってこそ続けられるのでは。ボランティアはそれができないのではないかと。

- 最初は総務省で国民会議、県民会議そして市民会議を作れと市から言われて、嫌な人もいたが、やっていくうちに気持ちが変わってきた。今は広めてきた自負がある。今はやりたくないのではない。オール桑名で青少年育成のためになるのなら結集するのが早い。施策ビジョンの一つ方針を示してほしいのだが先の3つだけ言われた。
- ◎ それ以上ないものを求めてもないのではないか。
- ビジョンがないでいいというのはおかしい。
- ◎ 3つ以上出せと言っても出ないなら逆に提案していくのはどうか。
- 話し合える状態ではなかった。今までは市役所から職員がきて話し合いをしていた。最初は青少年サポートセンターで手厚くやってもらった。それが無くなり部署が変わり職員も来ない。センター化に伴って多度長島の担当は外され、何とか役員もやっていた。これで2年後3年後まちづくり協議会をといるときにこのままではうまくいかないと思い、意見や質問を出してきたけれど一向に納得がいく答えが来ない。糠に釘。まちづくり協議会で青少年は精義地区は外すのか。
- ◎ それはまた別組織である。
- まちづくり協議会も地域差は必ず出る。説明会の折、我々とは一緒にできないということと言われた。青少年育成会議の扱いはどうなるのか。これでいいのか。
- ◎ やる気のある人がNPO法人を立ち上げるような考えはないのか。行政からおろしてもらおうことしかないのか。
- 合併時に、個人情報や行政的なものも扱うため市が雇用した人にやってもらいたいということで却下もされている。
- ◎ 桑名の今の事務局を全管理事務局にするのは無理か。
- 無理ではない。
- ◎ 事務局だけでも一本化したらどうか。

- 事業はともかく、市は地域地域で動くことは認めないと言っている。一本化ということはみんな一緒ということ。
- ◎ 今回、当局からレクチャーを受けたが、市は職員を引き上げたいということだけだったが。
- 引き上げたらこの事業はできない。それを行政はわかっていない。
- ◎ 地域のことは地域でということが国から降りてきている。まち協も連合自治会で温度差はある。
- 大山田のような新しい地区は違う。国がまちづくりを進めているといっても桑名には必要なのか。青少年育成会議は桑名市に対してであって、いったんチャラにして行政が要らないなら作らなければいいし、要るならみんな同じような組織にしたらい。人件費カットのためにこの事業を切ることが市の姿勢ならそれでいい。一本化してほしいわけではない。
- ◎ 市の姿勢があろうがなかろうが、子どもたちのためにやるのが当然ではないか。
- 当然とは思わない。長島も青少年市民会議はやめて新しいのにしてほしいと思う。行政あって市民あっての仕事ということ認識していないから皆怒っている。青少年市民会議は行政の仕事であり、望みであり、子どもたちのためなのに、今はこれはあなた達の仕事でしょうという現実。今度は新政策まちづくりをいかにもやっていると言わんばかり。
- ◎ 何とか事務局を一本化するときに誰か増えても一本化は難しいのか。
- 今、事務局がパートでやっている仕事は本部と桑名地域会議の作業。多度長島は職員 1~2 名でやっていた。二人か三人分の仕事。一人分の人件費ではないはずである。センター化の前に、職員が抜けるならパートを雇うからその分の人件費をお願いしたが、なしのつづて。行政の都合もわかるがボランティアで仕事しろというのと同じ。
- ◎ 多度と長島は分かれているが、同様なことをやっている経緯から、一本化すると合算できないか。
- 事業が限られてくる。今と同じ状態で一本化は行事が減る。補助金も減る。多分成り立たない。
- ◎ 事務局ひとりで3つを賄えるような発展的縮小はないのか。

- 縮小するなら我々の考えと市の考えの整合性を図らなくてはいけない。
- ◎ 例えば、企業でも景気が悪くなってきたら、やりたいことがある中で縮小するように、多度長島も今までのを保ちながら前向きにはいけないか。
- 事業を削減するしかない。無駄な事業ならできても、結局そのつけが子どもに回れば一緒のこと。
- ◎ 一本化して薄くなったら子どもたちへのダメージは計り知れない。発展的縮小の方がまだよいのでは。
- 発展的と言っても結局やめてしまうことになる。でもやる気のある人がNPO法人を立ち上げて出てくるかもしれない。
- ◎ もう一人事務員を雇用し事業を継続したら具体的にいくらか。
- 人件費は行政の方で算出できる。
- ◎ 一度全部壊してまた立ち上げるのは非常に困難だと思う。どこが立ち上げるのか。
- 行政は立ち上げる苦勞をした方がいい。議員が行政に対してその苦勞をするように言ってほしい。
- ◎ 言ったとしても、出来なかった場合は無くなってしまう。
- 本当にやる気があるならなぜ課を作らないのか。鈴鹿市は青少年課を作っている。こういう状況になり自分たちでやれというのは行政や議員がやる気がないとと言われても仕方ない。近隣市町に対して恥ずかしい。
- 着地点を見つけるために合わせようとやってきたけど、離れていく。
- 今までの経緯や話を議会が全然知らないというのは困るので、今回このような機会を持った。回答が欲しいとは思わないが、同じ方向を向いてくれたら。今まで話をできて効率化で人件費を減らしたというなら、この青少年育成会議は効率化を考えたら要らない仕事なのか。地域によって活動内容は異なり、合併後もその当時作った組織がいいと思うものをやってきた。だから持ち方も違う。それを有効利用しながら考えて、桑名市の青少年育成会議をきちっと



されたらどうですかというのが我々の提案。

- ◎ 回答はここでは出ないが、それぞれがお聞きした中で思いを持って議員活動をしていく。
- この会議でお世話になり1年未満。扱いに対し怒り半分、子どもたちへの心配半分。健全に成長してほしい気持ちは伝わってくる。その思いを無くしてはいけない。
- 多度長島は文書を受け取るところ、お金を預かるところもない。今まで多度長島庁舎の人がいろいろな仕事と兼務してやってきた。事務局の人がふたりいたら仕事は回るかもしれない。多度長島はセンターの一角に集約したいものだが。
- 1年くらいこの話をしてくれて、1年では解決しない。こういう状態になっていることを知ってほしいために、いきいきトークをお願いをした。
- まちづくり協議会についてよく聞いているが、星見ヶ丘はすでに作ってある。子どもたちのことは自分たちの地域で今後もやっていくし、補助金がなくなってもやっていこうと進めている。このように温度差もあるのでみんなができるようにしてほしい。市としては地域の事は地域でというのはあるが。
- 私たちがします、という本来の仕事をしないう行政に怒りがくる。
- 回答書に書いてあるにもかかわらず、話し合いをはぐらかし、会議にも来てくれなくなった。話し合いができなくなるような状況をなぜ作ったのかと思う。解散するんですね、というような感じで、ある日突然会議に来てくれなくなった。
- ◎ 子どものことはしっかり見ていきたい。青少年市民会議は残していきたいけれど、思いは受け止め、具体的な活動を見て勉強させていただきたい。議会でもこのことを話していきたい。今日はありがとうございました。
- ありがとうございました。